

郷土史探訪

港神社と別府築港

記念碑文について

手嶋 宏 治

別府築港之碑

明治四年に構築された別府港は、現在の流川通り出先の防波堤で囲まれた船溜まりとして現存している。旧棧橋はまだなかった。記念に建てられた波止場神社も今は荒れたまま、境内に佇立する記念碑もそれと知って振り返る人もなく、時日の流れに委ねられている。今回は碑文を紐解き、別府発展を夢見て港を構築した先人の艱難辛苦の営みに思いを馳せてみたい。

別府築港之碑文

(正面) 別府築港之碑

正一位 大勲位侯爵 松方正義

(裏面) 別府築港之碑陰

王政維新百廢悉ク舉リ庶績咸熙マリ皇澤賈ヒ敷ク而シテ別

府築港ノ擧モ亦實ニ端ヲ明治ノ初メニ發シタリキ初メ松方侯爵ノ日田縣ニ知事タルヤ管内要地ニ生産曾所ヲ設ケテ殖産興業ヲ奨勵シ明治二年管内ヲ巡視シテ別府ニ至リ温泉ノ釜涌ヲ觀テ將來ノ繁榮ヲ豫測シ意ヲ海上運輸ニ注キ論スニ築港ノ急務ヲ以テセラルル是ニ於テ別府生産掛日田郡隈町劉藤兵衛同町森宗兵衛其意ヲ體シ同僚大分郡原村間藤幸右衛門同郡乙津村佐藤和平治ヲ率勵シ村老日名子太郎兵衛堀清左衛門松尾彦七大野六兵衛等ト相議シ奔走計畫スル處アリ東海岸ノ中央ヲトシテ東西百間南北八十間ノ防波堤ヲ築キ港口ヲ東南ニ開カントシ梟廳ニ請フテ工費金八千兩ヲ借り三年二月ニ起工セシカ工未タ竣ラサルニ暴風雨ニ遭フテ破壊ス因テ梟廳ニ具狀シテ修繕工費ノ不足ヲ補借シ四年五月ニ至リ全ク竣工ヲ告ケ工費前後合セテ金貳萬兩ニ及ヒシカ八年八月ノ暴風ニ又モ口岸破損シ其修繕費金四千八百圓餘ヲ要セシヲ並ニ之ヲ官ニ借り均シク年賦ヲ以テ完納セリ當時人智未タ開ケス而シテ事多クハ創業ニ屬ス當事者ノ苦心想フ可キナリ其後二十六年十月ノ颶風暴雨ニ口岸又々八十間餘破壊セシカ郡長齋藤利明町長高倉駒太郎等協力斡旋シテ工費金壹萬餘円ヲ官ニ仰キ修築工ヲ告ケ以テ今日ニ至レリ初メ別府寄港船舶ハ日本形帆船數隻ニ過キサリシニ六年五月日名子太郎大坂開商社ト締約シテ益丸號

一隻毎月一回入港スルコトトナレリ之ヲ汽船ノ當港ニ來ル嚙矢トナス何ソ圖ラン爾後四十年ノ今日大小汽船ノ往復一晝夜十數回ニ下ラサル盛況ヲ見ルニ至ラントハ時運ノ然ラシムル所ト雖モ抑モ亦人力ニ非スヤ而シテ独リ海運ノ盛如此ノミナラス鐵道モ亦貫通シテ海陸ノ便並ヒ開ケ戸口増殖昔時二倍徒シ四方來浴ノ客モ亦一年間約一百餘萬人ヲ算スルニ至ル豈ニ亦盛ナラスヤ夫レ報本反始ハ人道ノ至リナリ今日繁榮ハ前人經營ノ賜タルヲ知ラハ固ヨリ其功勞ヲ銘セサル可カラス是以テ余町會議員ト相議シ爰ニ貞石ヲ波止場神社境内ニ建テ松方侯ノ題額ヲ請ヒ當時盡力者ノ姓名ヲ碑陰ニ刻シ以テ之ヲ不朽ニ傳ヘントス 乃チ其顛末ヲ略叙スルコト此ノ如シ(人名略)

大正元年壬子八月

別府町長 從六位 勲六等 吉田嘉一郎 識

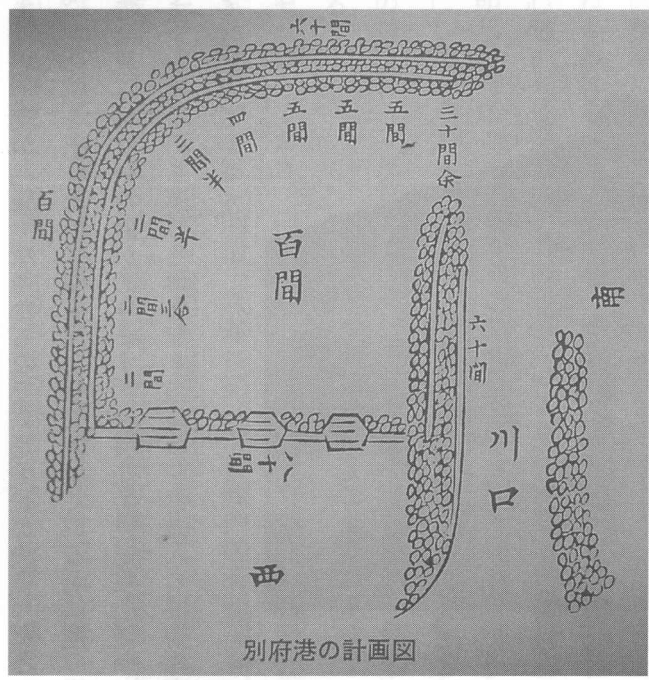
雨聲 溝口 信書

大阪新川橋 太田 傳吉 刺

築港碑文字解説

庶績咸熙マリシヨセキみなひろまり
皇澤ニ天皇の恵み

覃ヒ敷クニおよびあまねく、ゆまわたる而シテニシこうして 擧モニくわだても空涌ニブンヨウ、一時に多くのことが起こる具状シテニつぶさにしたたるめて 抑ニそもそも倍徒ニバイシ、徒は五倍
報本反始ニ祖先の恩に報いること
貞石ニ永遠に朽ち変じない石 碑陰ニ石文の裏面(文章)



別府港計画図 (『別府市誌』昭和60年刊)